

平成25年度全国環境研協議会

騒音振動担当者会議の概要

群馬県衛生環境研究所

平成25年度騒音振動担当者会議は熊本県保健環境科学研究所、熊本市環境総合センターが事務局となり、平成25年9月4日に桜の馬場城彩苑多目的交流館(熊本市)で開催された(参加者36名)。

特別講演1題、一般講演3題の後、主として環境省と会員機関での情報交換が行われた。とくにテーマを定めず、自由闊達な議論が行われた。

環境省の田木氏は、新幹線騒音測定について自治体からの報告をまとめたものを示し、さらに今後新規に開通する予定の路線(北陸新幹線、北海道新幹線)についての測定を関係自治体へお願いしたい旨の発表があった。また、騒音モニタリングマニュアルは多くの自治体でおおむね活用されている一方、とくに測定点の選定について住居が立地している場所での測定を強調していた。これは、住居が立地していない地域では測定・評価が対策に反映されないためである。

宮城県の菊地氏は騒音小委員会が平成21～24年度までの3年間(平成22年度は東日本大震災のため活動なし)で行ってきた環境騒音の影響とその評価に関する研究の成果を発表した。限られたデータではあるが、屋内外の騒音レベルの関係から遮音効果を算出し、それが環境基準の根拠となっている防音効果よりも小さいことを示した。また、その遮音効果は建物の種類や構造等から統計的に推計ができる可能性を示した。

鹿児島県の平原氏は航空機騒音に係わる環境基準が変更されたことに伴い、新旧基準での比較を行った結果について発表した。その結果、新旧の差は必ずしも当初の想定どおりではなく、その要因も騒音継続時間や騒音発生時間帯分布などが複

雑に関係していることが示された。

熊本県の古澤氏は平成23年3月に全線開通した九州新幹線沿線の騒音測定結果について、部分開業時も含む平成16年度からの結果を報告した。全線開通後の平成23年度以降は環境基準達成率は80%程度で推移しており、基準を超過している地域でも対策工事により評価値の低下が認められたところがあった。また、新幹線の速度が速くなったことにより評価値が上昇し、地点によっては環境基準を超過してしまうことを指摘した。

<会議次第>

- 1 開会(事務局挨拶)
古田 祥史(熊本県保健環境科学研究所)
- 2 特別講演
新幹線騒音の現状と取り組みについて
田木 一也(環境省自動車環境対策課)
- 3 一般講演
 - (1) 環境騒音の影響とその評価に関する研究結果について
菊地 英男(宮城県保健環境センター)
 - (2) 航空機騒音に係わる新環境基準への対応について
平原 律雄(鹿児島県環境保健センター)
 - (3) 熊本県における九州新幹線騒音調査
古澤 尚英(熊本県保健環境科学研究所)
- 4 情報交換
桑原 厚(環境省大気生活対策室)
田木 一也(環境省自動車環境対策課)
- 5 閉会(事務局挨拶)
藤井 幸三(熊本市環境総合センター)